

～第63回 技能五輪全国大会エキシビジョンを振り返る～ 介護の技術で未来を切り拓く

2025年10月18日(土)・19日(日)、愛知県国際展示場で開催された『第63回技能五輪全国大会』に【介護】がエキシビジョン（公式記録としない公開演技）として追加されました。この歴史的な舞台に、全国老人福祉施設協議会を代表して出場したのが、特別養護老人ホーム極楽苑の介護ユニットリーダーです。日本の介護の質と専門性を全国に示すこの挑戦は、当苑にとっても、介護の未来にとっても大きな一歩となりました。



技能五輪全国大会とは？

技能五輪全国大会は、昭和23年に第1回大会が開催されました。戦後復興期において、日本の産業を支える「技能」の重要性が強く認識され、若い技能者の育成と社会的評価の向上を目的に創設されたのが始まりです。原則23歳以下の若い技能者が、日頃培ってきた技術や知識を競い合う日本最大級の技能競技大会です。製造業や建設業をはじめとする、多様な分野で開催され、「技能の尊さ」「ものづくり・人づくりの重要性」を社会に発信してきました。この大会は、単なる競技ではなく、次世代の担い手を育成し、社会を支える技術の価値を可視化する場でもあります。

なぜ？介護が正式競技になるのか。

高齢化が急速に進む日本において、介護の質は社会全体の課題となっています。介護は「思いやり」だけでなく、専門的な知識、判断力、身体技術、コミュニケーション力を必要とする高度な技能です。こうした背景から、介護技術を正式な「技能」として評価し、若い世代にその魅力を伝えるため、技能五輪への導入が決定されました。2025年はエキシビジョン競技として実施され、2026年から正式競技となる予定です。

競技課題の内容

入浴介助



脱衣室で脱衣介助から始まり、浴室内のシャワーチェアまで歩行を介助。その後、シャワーで洗身のみを行い、再び脱衣室の椅子まで歩行介助して着衣を整える。

食事介助



食事の準備を整えた後、利用者の姿勢を保持し、摂取量や嚥下の様子を観察しながら食事介助。食後は口腔ケアのため、洗面台の椅子まで杖による歩行介助で移動する。

排泄介助

スライディングボードを使用して、車いすに移乗し、トイレまで車いす移動を行う。トイレ内ではカーテンを閉め、利用者のプライバシーへの配慮も評価対象となる。

～競技を通して、介護技能への関心と理解を～

競技当日の様子

会場には、全国各地から集まった若き介護人材と関係者の熱気があふれていました。

愛知県の大村知事も来場され、競技の様子を熱心に視察されるとともに、出場者への温かい激励の言葉をかけておられました。

介護の競技には、各課題に対して一つひとつの動作への安全性と正確さ、そして「その人を思う心」が求められます。出場者は、緊張感の満ちる会場の中、落ち着いた表情で利用者役と向き合い、限られた時間の中でも、尊厳を守ろうとする姿勢や丁寧な声掛けを心がけており、介護が人と人をつなぐ専門職であることを強く印象づけました。



技能五輪への想い

このたび、極楽苑を代表して技能五輪全国大会に出場させていただき、大変貴重な経験をする事ができました。競技への参加は、改めて基礎を見直すことにつながり、そこから多くの気づきを得るなど、とても有意義な時間となりました。当日は、高校や専門学校の学生の他、一般の来場者も多く、介護のやりがいや大切さ、また難しさについても知っていただける良い機会になったのではないかと思います。

他の出場者の皆さんのさまざまなケアの工夫や考え方に触れ、学び合い、意見交換ができたことも、大きな刺激となりました。今回の大会で得た経験や学びを、今後の業務に活かし、極楽苑のより良いケアにつなげていきたいと考えています。

介護ユニットリーダー 山本悠喜

